

事前に、以下の手順で交流ツールの使用準備をお願いします

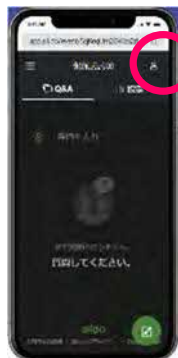
手順1



ご自身のスマホや
タブレットで
下のQRコードを
読み取る



手順2



人マーク
をタップ

手順3



画面下
自分の
プロフィール
をタップ

手順4



あなたの使用言語
が日本語に
なっていればOK
なっていない
「日本語」に
変更して保存



終了!

令和6年度 第2回幼保小接続推進研修会 及び令和5・6年度幼保小接続推進リーダー育成事業 第2回連絡協議会

幼保小の協働による架け橋期の教育の充実 ～架け橋期のカリキュラムの実施に向けて～

令和7年2月6日(木)13時15分～16時15分
@鳥取県立福祉人材研修センター ホール

北海道教育大学 教職大学院
教授 渋谷 一典



1. 幼児教育の質の向上について

(1) 基本的な考え方

- 幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、義務教育及びその後の教育の基礎を培うことが目的
- 幼稚園、保育所、認定こども園といった各幼児教育施設においては、集団活動を通して、幼児期に育みたい資質・能力を育成する幼児教育の実践の質の向上が必要
- 教育環境の整備も含めた幼児教育の内容・方法の改善・充実や、人材の確保・資質及び専門性の向上、幼児教育推進体制の構築等を進めることが必要

(2) 幼児教育の内容・方法の改善・充実

- ① 幼稚園教育要領等の理解推進・改善
 - ・ 新幼稚園教育要領等の実施状況や成果等の把握、調査研究や好事例等の情報提供による教育内容や指導方法の改善・充実
- ② 小学校教育との円滑な接続の推進
 - ・ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を手掛かりに幼小の教職員の連携促進
 - ・ スタートカリキュラムを活用した幼児教育と小学校教育との接続の一層の強化
- ③ 教育環境の整備
 - ・ 幼児の直接的・具体的な体験を更に豊かにするための工夫をしながらICTを活用、幼児教育施設の業務のICT化の推進
 - ・ 耐震化、衛生環境の改善等の安全対策の実施
- ④ 特別な配慮を必要とする幼児への支援
 - ・ 幼児教育施設での特別支援教育の充実、関係機関・部局と連携した切れ目のない支援体制整備
 - ・ 教職員の資質向上に向けた研修プログラムの作成、指導上の留意事項の整理
 - ・ 幼児教育施設を活用した外国人幼児やその保護者に対する日本語指導、多言語での就園・就学案内等の取組の充実

(4) 幼児教育の質の評価の促進

- 学校関係者評価等の実施により持続的に改善を促すPDCAサイクルを構築
- 公開保育の仕組みの学校関係者評価への活用は有効
- 幼児教育の質に関する評価の仕組みの構築に向けた手法開発・成果の普及

(5) 家庭・地域における幼児教育の支援

- ① 保護者等に対する学習機会・情報の提供
 - ・ 保護者等に対する相談体制の整備など、地域における家庭教育支援の充実
- ② 関係機関相互の連携強化
 - ・ 幼児教育施設と教育委員会、福祉担当部局・首長部局、児童相談所等の関係機関の連携促進
- ③ 幼児教育施設における子育ての支援の促進
 - ・ 親子登園、相談事業や一時預かり事業等の充実、預かり保育の質向上・支援の充実

(6) 幼児教育を推進するための体制の構築等

- 地方公共団体における幼児教育センターの設置、幼児教育アドバイザーの育成・配置等による幼児教育推進体制の構築
- 幼児教育推進体制の充実・活用のための必要な支援の実施、幼児教育アドバイザーの推進方策の検討、好事例の収集
- 科学的・実証的な検証を通じたエビデンスに基づいた政策形成の促進

(7) 新型コロナウイルス感染症への対応

- 保健・福祉等の専門職や関係機関等とスムーズに連携できる幼児教育推進体制の整備、研修等の充実等による資質等の向上
- トイレや空調設備の改修等による衛生環境の改善等の感染防止に向けた取組の推進、園務改善のためのICT化支援等教職員の勤務環境の整備

6

「令和の日本型教育」
の構築を目指して

～全ての子どもたちの
可能性を引き出す、
個別最適な学びと
協働的な学びの
実現～

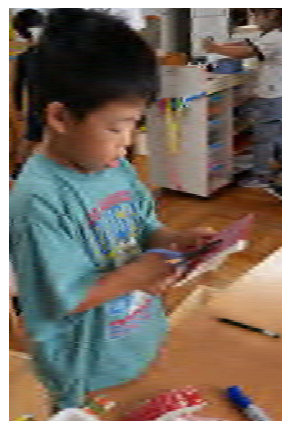
令和3年1月
中教審答申

1. 幼児教育の質の向上について

(1) 基本的な考え方

- 幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、義務教育及びその後の教育の基礎を培うことが目的
- 幼稚園、保育所、認定こども園といった各幼児教育施設においては、集団活動を通して、幼児期に育みたい資質・能力を育成する幼児教育の実践の質の向上が必要
- 教育環境の整備も含めた幼児教育の内容・方法の改善・充実や、人材の確保・資質及び専門性の向上、幼児教育推進体制の構築等を進めることが必要

● 幼児教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、義務教育及びその後の教育の基礎を培うことが目的



「令和の日本型教育」
の構築を目指して

～全ての子どもたちの
可能性を引き出す、
個別最適な学びと
協働的な学びの
実現～

令和3年1月
中教審答申

学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について
～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～

令和5年2月27日

中央教育審議会 初等中等教育分科会
幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会



架け橋期の教育の充実に関しては、3要領・指針（幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領）や小学校学習指導要領において、幼保小の円滑な接続により子供の学びの連続性を確保することや、小学校の生活科の創設やスタートカリキュラムの編成・実施により、**幼児期において遊びを通して育まれてきた資質・能力を小学校の各教科等における学習に円滑に接続すること等が求められてきているものの、**様々な課題が生じており、これらの趣旨を一層実現していくことが求められている。

「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」
令和5年2月27日 中央教育審議会 初等中等教育分科会 幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会

幼保小の架け橋プログラムの実施に
向けての手引き（初版）



教育は、教育基本法や関係法令が掲げる目的及び目標の達成を目指し、子供一人一人の生涯にわたる発達や学びの連続性を見通して行われるものです。

その中で、義務教育開始前となる5歳児は、それまでの経験を生かしながら新たな課題を発見し、新しい方法を考えたり試したりして実現しようとしていく時期であり、また、義務教育の初年度となる 小学校1年生は、自分の好きなことや得意なことが分かってくる中で、それ以降の学びや生活へと発展していく力を身に付ける時期になります。

このように、義務教育開始前後の5歳児から小学校1年生の2年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくるために重要な時期で、この時期を「**架け橋期**」と呼ぶことにしました。

この時期の教育については、幼保小という多様な施設がそれぞれの役割を担っています。子供の成長を切れ目なく支える観点からは、幼保小の円滑な接続をより一層意識し、乳児や幼児それぞれの特性など発達段階を踏まえ、一人一人の多様性や0～18歳の学びの連続性に配慮しつつ、教育の内容や方法を工夫することが重要です。

【成果】

- ◎ 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の3要領・指針の整合性確保
- ◎ 幼保小接続期の連携の手掛かりとして「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定
- ◎ 小学校との連携の取組を行っている園が約9割に上るなど、取組が進展中

【課題】

- (1) 幼稚園・保育所・認定こども園の7～9割が小学校との連携に課題意識、各園・小学校における連携の必要性に関する意識の差
- (2) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が到達目標と誤解され、連携の手掛かりとして十分機能していない
- (3) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- (4) 小学校側の取組が、教育方法の改善に踏み込まず学校探検などにとどまるケースが多い
- (5) 施設類型の違いを越えた共通性が見えにくい

各学校種間の連携を踏まえた 子供を主語にした学びの充実

一般的には、**学校種間連携は なかなか進展していない**とされてきました。

学校種間の
連携・進展は
難しい？

進展しにくい背景(例)

① 連携に対する理解不足	② 共通ビジョン目標の欠如	③ 連携体制の整備不足	④ 情報共有の不足	⑤ 教職員の負担増加	⑥ 時間と労力の確保	⑦ 評価制度の整備の不足
連携の意義や重要性に対する理解が不十分	連携によって何を達成したいかが不明瞭	連携を推進する体制や仕組みの整備が不十分	校種間の情報共有が、連携の阻害要因に	活動に伴う負担増加がモチベーション低下に	必要な時間と労力が確保できない	連携効果を測定・評価するための制度が未熟

幼稚園教育・保育所保育・幼保連携型認定こども園における教育と保育の整合性
小学校教育との円滑な接続に向けて (イメージ)



幼保小連携の成果

- 3要領・指針の整合性の確保
- 連携の手掛かり「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」策定

※ 3要領・指針とは、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領をいう。

幼保小連携の課題

- ▼ 行事の交流等にとどまり、**資質・能力をつなぐ**までに至っていない
- ▼ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が**連携の手掛かりとして十分機能していない**
- ▼ 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」だけでは、具体的なカリキュラムの工夫や教育方法の改善方法がわからない
- ▼ 小学校側の取組が、**教育方法の改善にまで踏み込めていない**

接続期の学びや
生活の基盤の育成に影響

幼児教育において育みたい資質・能力の明確化

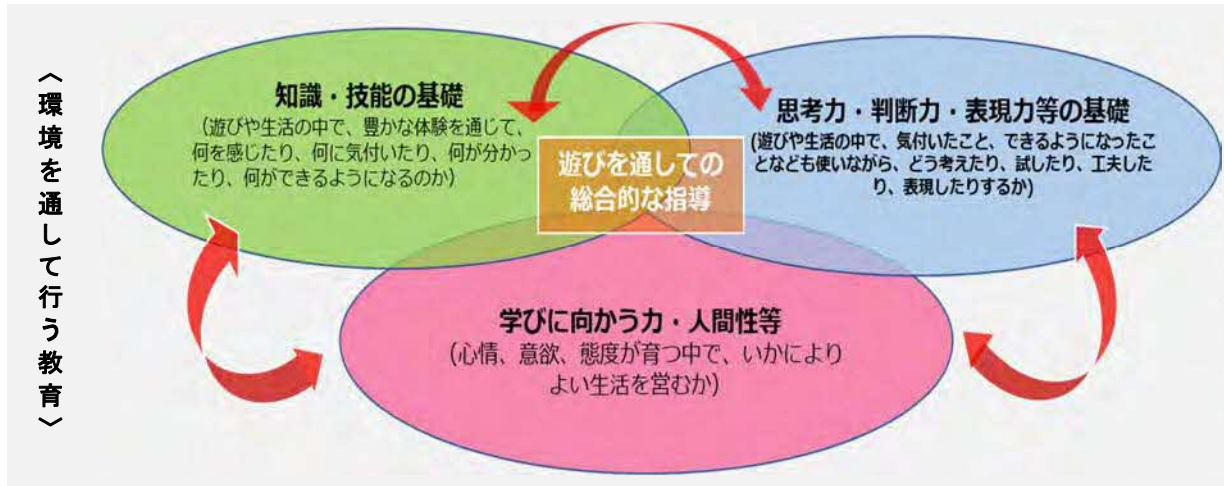
各学校段階及び全ての教科等について共通する、育成を目指す資質・能力を**資質・能力の三つの柱**として整理

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力、人間性等」の涵養



■ 幼児教育段階では、三つの柱を下図のように整理

■ なお、幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、**遊びを通しての総合的な指導**を行う中で、**一体的に育んでいくことが重要**



「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」(平成28年8月)から引用

幼児教育において育みたい資質・能力の明確化

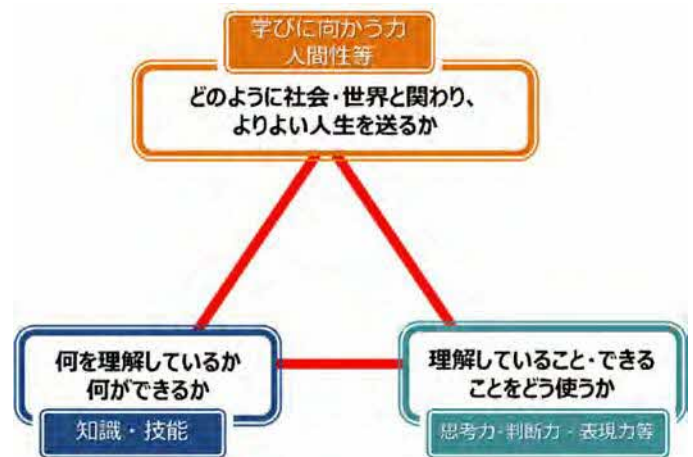
■ 幼児教育段階では、三つの柱を下図のように整理

■ なお、幼児教育の特性から、これらは個別に取り出して身に付けさせるものではなく、**遊びを通しての総合的な指導**を行う中で、**一体的に育んでいくことが重要**

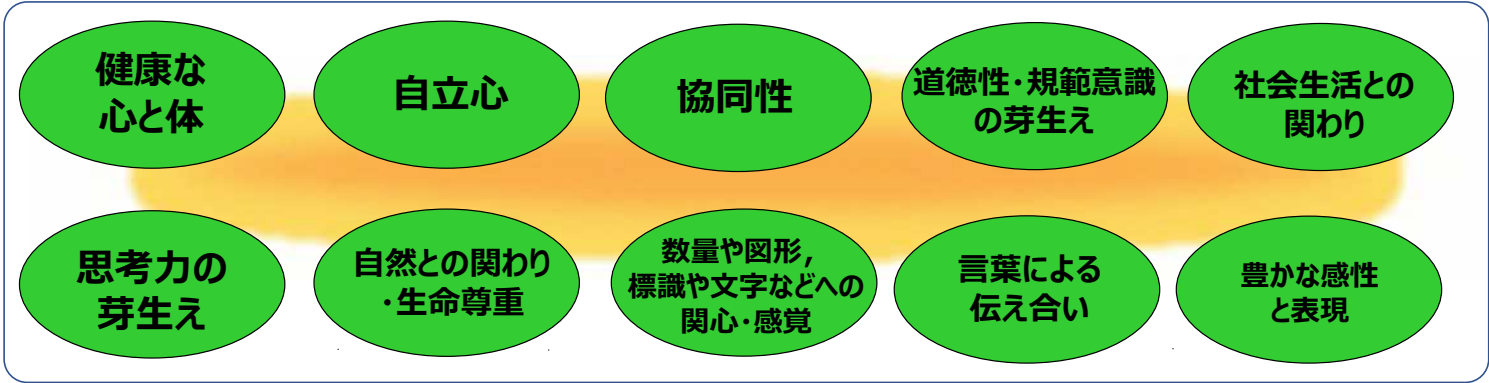


幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 規律性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・年中行事
- 秋祭・田楽・舞踊や本字などへの関心・体験
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現



幼児期の終わりまでに育ってほしい姿



■ 幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼稚園教育において育みたい資質・能力が育まれている幼児の具体的な姿

■ 特に5歳児後半に見られるようになる姿

留意点

- 到達すべき目標ではない
- 個別に取り出されて指導されるものではない
- 一人一人の発達の特性に応じて、これらの姿が育っていくものであり、全ての幼児に同じように見られるものではない

13

<p>(1) 健康な心と体</p>	<p>幼稚園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。</p>	<p>(6) 思考力の芽生え</p>	<p>身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。</p>
<p>(2) 自立心</p>	<p>身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。</p>	<p>(7) 自然との関わり・生命尊重</p>	<p>自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることを覚えるようになる。</p>
<p>(3) 協同性</p>	<p>友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。</p>	<p>(8) 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</p>	<p>遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。</p>
<p>(4) 道徳性・規範意識の芽生え</p>	<p>友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。</p>	<p>(9) 言葉による伝え合い</p>	<p>先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。</p>
<p>(5) 社会生活との関わり</p>	<p>家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、幼稚園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり、活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。</p>	<p>(10) 豊かな感性と表現</p>	<p>心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。</p>



すなば遊び
 遊びの幅を広げる・幅が広がるポイントを見付ける



「どんぐりコースター」(年長)

第Ⅲ期「充実」

10月のねらい

- 互いのイメージを擦り合わせる面白さを十分に味わう

内容

- 様々な体験を通してイメージを豊かにし、色々な素材に親しみ、友達と一緒に工夫して製作を楽しむ

一見、似た活動ではありませんが……



「どんぐりのぼうけん」(1年生)

単元名：えがおいっぱい あきいっぱい (24時間扱)

ねらい

- 自分が考えた遊びで園児に楽しんでもらうために、遊びを工夫したり、遊びのルールを考えたりすることができる。(思考力、判断力、表現力等の基礎)

評価

- 園児のことを考えながら、遊び方やルールを工夫したり、分かりやすく伝えようとしていたりしている

内容(6) 自然や物を使った遊び

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくり出すことができ、その面白さや自然の不思議さに気付くとともに、みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする

学びに向かう力
人間性等

みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとする

その面白さや自然の
不思議さに気付く

知識・技能

身近な自然を利用したり、身近にある物を使ったりするなどして遊ぶ活動を通して得た気付きや技能

活用して

思考力・判断力・表現力等

遊びや遊びに使う物を工夫してつくり出すことができ

深い理解を伴う
知識を習得





具体的な内容のまとめりごとの評価規準(例)		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 身近な自然や物は、いろいろな遊びに利用できることに気付いている。 遊びの楽しさや遊びを工夫したり遊びを創り出したりする面白さに気付いている。 自然の中のきまり、自然の事象の不思議さに気付いている。 約束やルールが大切なことやそれを守って遊ぶと楽しいことに気付いている。 みんなで楽しく遊ぶ際、道具や用具の準備や片付け、掃除、整理整頓をしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しみたい遊びを思い描きながら、遊びに使う物を選んでいる。 予想したり、確かめたり、見直したりしながら、遊びに使う物をつくりだしたり遊んだりしている。 比べたり、試したり、見立てたりしながら、遊びを楽しんでいる。 遊びの約束やルールなどを工夫しながら、遊んでいる。 遊びを工夫したり、友達と楽しく遊んだりしたことを振り返り、表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> みんなで楽しく遊びたいという願いをもち、粘り強く遊びを創り出そうとしている。 友達のをよき取り入れたり自分の遊びを生かしたりして、遊びを楽しそうとしている。 みんなで遊ぶと生活が楽しくなることを実感し、毎日の生活を豊かにしようとしている。

本時の目標

- ・ 身近にある物から使いたい物を自分で選び、工夫しながら遊ぶことができる。

本時の評価規準 【思考・判断・表現】

- ・ 身近にある物から使いたい物を自分で選び、工夫しながら遊んでいる。

工夫しながら遊んでいる

- ・ いつでも上に飛ぶ飛ばし方を見つけている。
- ・ 遠くまで進む材料を試しながら選んでいる。
- ・ 動きに合わせて楽しめるコースをつくっている。



遊びに浸り没頭する遊び自体の面白さ

「落ち葉を踏みしめたり、投げあげたりしてその感触を楽しむ」

遊びの約束やルールを変えていくなど、遊びを工夫し遊びを創り出す面白さ

「鬼の数を増やしたら楽しくなるかな」

友達と一緒に遊ぶことの面白さ

「みんなでやると楽しいね」

遊びの面白さ

自然の不思議さ

自分の見通しと事実とが異なったときに生まれる疑問

「土台を軽い段ボールに変えたのに、速く進まないよ」

目に見えないものの働きが見えてくること

「ゴムを強く引っ張ったら高く飛んだよ」

自然の中にきまりを見付けること

「アサガオの色水は、アサガオの花の色と同じだね」

「風の向きによって、凧の上がり方が違うんだよ」

自然の事物や現象がもつ形や色，光や音など自然現象そのもの

工夫している 子どもの見取り

△△している

観察している
関わっている
記録している
方法を決めている
表している
集めている
楽しんでいる
遊んでいる
交流している
捉えている
知らせている
利用している
伝え合っている
計画を立てている

〇〇して（しながら）、△△している

① 見付けて（見付けながら）

思い起こして、感じて、気にしながら、意識しながら

② 比べて（比べながら）

特徴でまとめながら、違いで分けて、順序を考えながら

③ たとえて（たとえながら）

知っていることで表しながら、関連付けながら、置き換えて、見立てて

④ 試して（試しながら）

実際に確かめながら、調べたりやってみて、練習しながら

⑤ 見通して（見通しながら）

思い描きながら、予想しながら、振り返ってなど

⑥ 工夫している（工夫しながら）

生かしながら、見直して

記述された文章や感想から察する

発言内容から察する

活動中のつぶやきから察する

対話を仕掛けて察する

表情から察する

コーナーへの動きから察する

これまでの活動との違い（変容）から察する

(6)
思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(3)
協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる

(9)
言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10)
豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

こどもは、園から小学校に移行していく中で、突然違った存在になるわけではない。発達や学びは連続しており、幼稚園から小学校への移行を円滑にする必要がある。しかし、それは、小学校教育の先取りをすることではなく、就学前までの幼児期にふさわしい教育を行うことが最も肝心なことである。つまり、幼児が遊び、生活が充実し、発展することを援助していくことである。

育みたい資質・能力の三つの柱がどう表れているかを検討する

感じ気付くことなど

思考し工夫することなど

意欲をもち粘り強く取り組み協力することなど

(6)
思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

具体化する

実際に確かめる

「考える」ための引き出し

調べたりやってみたりする

思い起こす

振り返る

意識する

見直す

置き換える

特徴でまとめる

生かす





内容(7) 動植物の飼育・栽培

生活科の基礎・基本
総合的な学習の時間の基礎・基本



動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみを持ち、大切にしようとする。

児童が直接関わる学習対象や実際に行われる学習活動等

「思考力、判断力、表現力等の基礎」に関すること

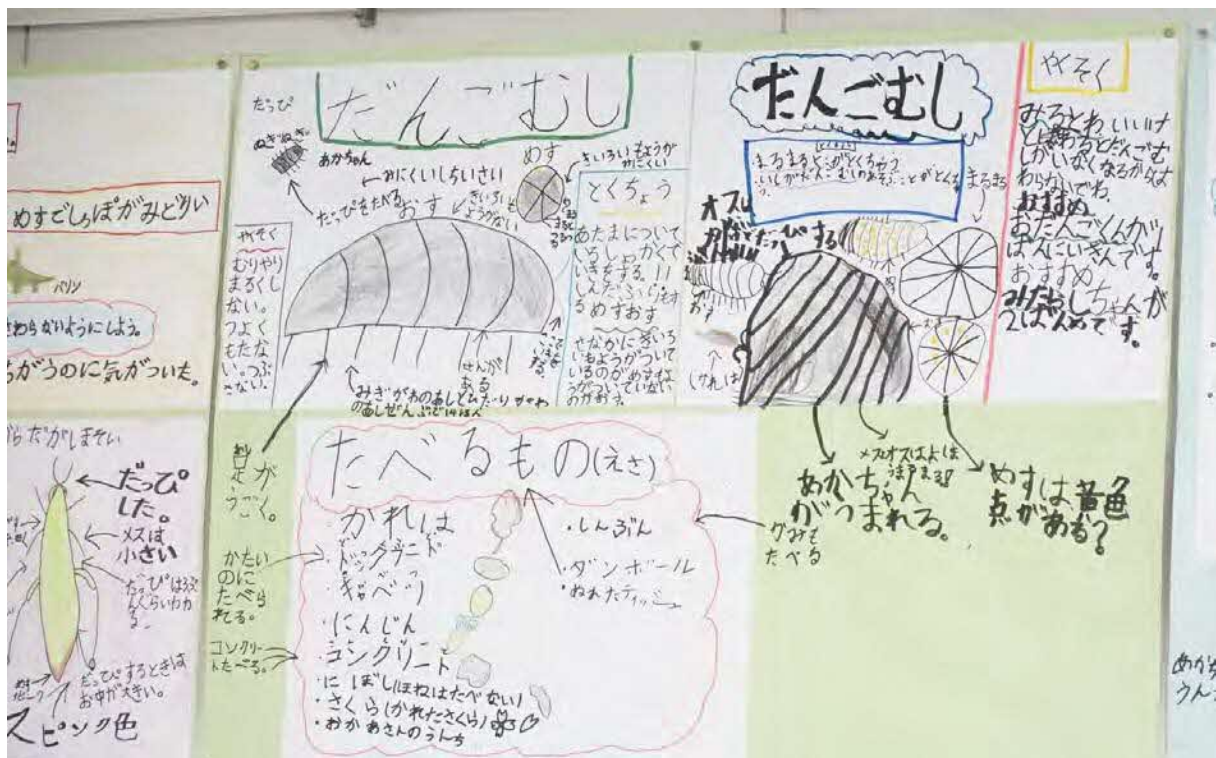
「知識及び技能の基礎」に関すること

「学びに向かう力、人間性等」に関すること



生活科の学習評価

生活科の基礎・基本
総合的な学習の時間の基礎・基本



生活科の学習評価



体験

工夫する

表現

たぶん、トイレットペーパーのしんの大きさかもしれません。

例える

表現

今日は25cmもいきました。たぶん昨日は～～、今日は下らへんで力いっぱい押してみたからだと思います。

見通す

体験

比べる

表現

少しは飛ぶようになったけど、あんまり飛ばないです。

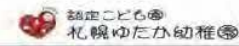
試す

体験

見付ける

教育課程 <令和5年度版>

3・4・5歳児の保育の道筋「子どものこんな育ちを支えたい」



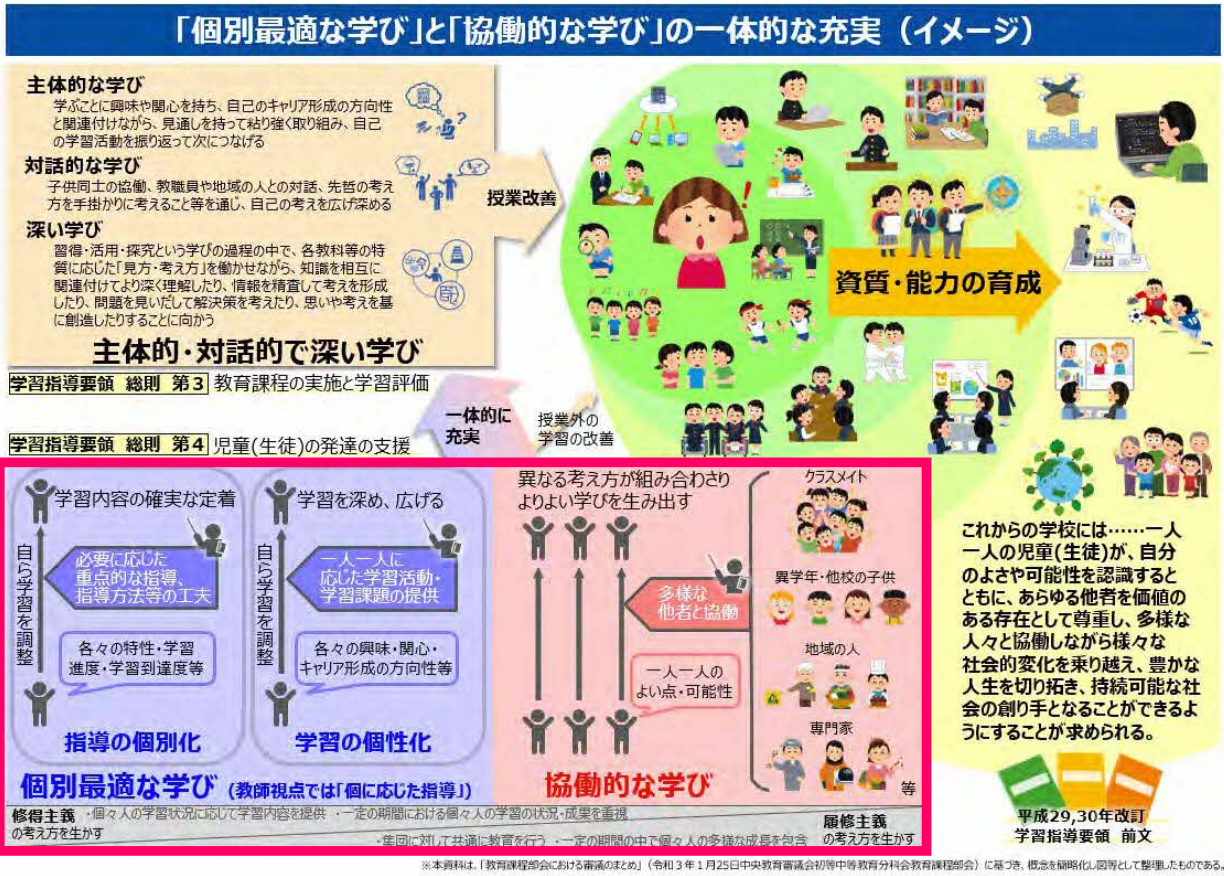
年齢	3歳児(年少)	4歳児(年中)	5歳児(年長)
モットー	自分らしく周囲の人と共に生きる喜びを見いだせるよう、子ども達一人ひとりの心の根っこを支える。		
コンセプト	"ゆたかなこころ"を育てる		
教育目標	"ゆたかなこころ" "たくましいからだ" "たのしいかんがえ"		
育てていきたい子どもの姿	「ぼく」「わたし」になる "自分"を確立する第一歩を ゆったりとした安心感の中で心が安定し、 自分らしさを出せるようになる。	「ぼく」「わたし」が「みんな」と交わる 葛藤経験から築く友達関係を 自己主張をぶつけ合いながら、 「人と共に生きる力」の基礎を身に付ける。	「ぼく」「わたし」と「みんな」が繋がる 協同的な集団活動を 今までの経験を踏まえ、 自分達で物事を解決したり調和を図れるようになる。
発達の変	信頼できる保育者の眼差しの中で、情緒が安定し、自分なりの方法で思いを表現する。	他者との繋がりを通して心が揺れ動く中で、自分という人間に気づいていく。	仲間と共に目的に向かって考えを出し合いながら支え合い、自分を表現したり相手を受け入れたりしようとする。
発達過程を踏まえた子育てのキーワード	<p>4月 期待と不安 遊びの手がかりが少なからず見いだす</p> <p>5月 やってみたい！の芽を 少しずつ開かせる</p> <p>6月 友達と遊ぶの 面白さを知る</p> <p>7月 幼稚園、楽しくなってきた 気の合う友達の中で自分を表現する</p>	<p>4月 期待と不安 友達は嬉しいけれど 理由の変化に...</p> <p>5月 自分から安心へ 友達や保育者と遊ぶ 心地よさを感じ、安心して遊ぶ</p> <p>6月 色々なことへ興味 や好奇心が広がる 面白さを知っていく</p> <p>7月 期待と不安 友達と遊ぶと 楽しい！ 自分の立場を探る</p>	<p>4月 期待と不安 友達の態度が 変わることに 戸惑いを感じる</p> <p>5月 友達と遊ぶの 楽しさを 共有する</p> <p>6月 友達と遊ぶの 楽しさを共有する 友達と遊ぶの 楽しさを共有する</p> <p>7月 友達と遊ぶの 楽しさを共有する 友達と遊ぶの 楽しさを共有する</p>
保育・教育の目標	<p>気付き 異感 ひらめき 面白さ 発見 自己 愛こがれ 自己選択 計画性 記憶 探求心 達成心 創造 問題解決 継続 社会性 実践 達成感 もどかしさ 興味 受け入れ 夢中 選択 好奇心 集中 自覚 発見 視野 見通し 新たな発見 観察力 新たな期待 楽しさ 自己解決 充実感 自己肯定感</p>		
保育・教育の目標	<p>表現力 状況 コミュニケーション 判断 イメージの広がり 探索 応用 言葉での伝え合い 共同の喜び</p>		
保育・教育の目標	<p>不思議がる気持ち 思考力 考える 想像 実行力 実行力 工夫 アイデア 感動 目に影響 譲り合う</p>		
保育・教育の目標	<p>不安 喜び 思いやる 心地よい 自信 期待 待つこと 加減 怒り 悔しさ 我慢強さ(我慢) やりとり 満足感 粘り強さ けじめ 共育 我慢 自信 粘り強さ 粘り強さ 粘り強さ 粘り強さ</p>		

幼稚園の終わりまでに育ってほしい姿

- 小学1年(6歳)
- 学校教育目標
- 学校として育てたい子ども像
- 児童の実態を踏まえた学年・学級で目指す子ども像
- 年間指導計画
- 学習内容
- 生徒指導
- 学校行事等のねらい
- 学校研究との関連
- など

資質・能力の三つの柱

一人一人の
子供を主語
にする
学校教育



令和の日本型学校教育の本質

キーワードを正確に捉える

主体的な学び

学ぶことに興味や関心をもち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返り、次の学習につなげる

- 興味や関心を高める
- 粘り強く取り組む
- 見通しを持つ
- 振り返って次へつなげる
- 自分と結び付ける

授業改善に向けた 学習者の視点	授業改善に向けた 授業者の視点
<p style="font-size: 1.5em; font-weight: bold; margin-left: 10px;">主体的な学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 学ぶことに興味や関心を持つ ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	<ul style="list-style-type: none"> ● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子供が自らめあてをつかむようにする ● 子供が自分の考えを持つようにする ● 子供の思考を見守る ● 子供の思考に即して授業展開を考える ● 子供の考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる ● 子供が明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 学習課題を解決する方向性について見通しをもたせる

対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める



- 互いの考えを比較する
- 多様な情報を収集する
- 思考を表現に置き換える
- 多様な手段で説明する



- 先哲の考え方を手掛かりとする
- 共に考えを創り上げる
- 協働して課題解決する

授業改善に向けた 学習者の視点

- 先哲の考え方を手掛かりに考える
- 子供同士の協働を通じ、自己の考えを広げ深める
- 教職員との対話を通じ、自己の考えを広げ深める
- 地域の人との対話を通じ、自己の考えを広げ深める

授業改善に向けた 授業者の視点

- 思考を交流させる
- 交流を通じて思考を広げる
- 協働して問題解決する
- 板書や発問で教師が子供の学びを引き出す

対話的な学び



深い学び

各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすること



- 思考して問い続ける
- 知識・技能を習得する
- 知識・技能を活用する
- 自分の思いや考えと結び付ける



- 知識や技能を概念化する
- 自分の考えを形成する
- 新たなものを創り上げる

授業改善に向けた 学習者の視点

- 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる
- 知識を相互に関連付けてより深く理解する
- 情報を精査して考えを形成する
- 問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう

授業改善に向けた 授業者の視点

- 単元や各授業の目標を把握する
- ねらいを達成した子供の姿を具体化する
- 教材の価値を把握する
- 単元及び各時間の計画を立てる
- 目標の達成状況を評価する
- 資質・能力を焦点化する（つきたい力を明確にする）

深い学び

